

このニュースはFAXとメールで送信しています。地域民報への転載、各支部への配布にご活用下さい。

さっぽろ

市議団ニュース

2014年11月6日

No.122

日本共産党市議団事務局発行
電話 211-3221 FAX218-5124

保育士の処遇改善、基本給の引き上げで 宮川潤議員が質問

日本共産党の**宮川潤議員**は30日の札幌市議会決算特別委員会で、保育士の処遇改善についてたどしました。厚労省の調査でも、保育資格を持ちながら保育士になることを希望しない人が半数に上り、その理由は“やりがいはあるが、賃金は低く責任が重い”という実態が明らかになっています。このことを指摘した**宮川議員**は、「今年度も処遇改善（賃金引上げ）の事業が行われるが、各施設長へ『交付金申請書』の提出を依頼する文書をいつ出したのか」と質問。子ども未来局の**福田正人子育て支援部長**は、「10月16日に出して11月7日までに提出を求めた」といいました。

宮川議員は、「10月に入ってから申請をもとめ、基本給の引き上げを要請しても、結局、冬のボーナスでとってしまうのではないか」「来年については、基本給の引き上げが望ましいと今年度中に働きかけていくべきだ」とたどしました。

福田部長は、「来年度については国の予算が明らかになった時点で依頼したい」と答えました。**宮川議員**は、「ぜひ早期に基本給引き上げを要請していただきたい」と求めました。

学童保育指導員の賃金改善へ、年内に補正予算を

宮川潤議員は30日、市議会決算特別委員会で、学童保育の開所時間延長支援事業の実施についてたどしました。この事業は、指導員の賃金改善につながるものですが、実施を明らかにしない札幌市に不安と怒りが広がっています。

宮川議員は、市がこの事業の説明会で「実施に向け検討している」とのべ、しかも補助の条件となる賃上げの有無などを記入させる調査票を各学童保育所から提出させていると指摘し、「指導員の賃金アップは緊急で切実な問題になっている。しかし、どの学童保育所も財政上のやりくりができないので育成会の親たちは非常に申し訳ない気持ちでいる」と実情を訴えました。

そして、賃上げを決断しなければ支援事業の補助は受けられないという市の説明に、「父母会を夜遅くまで何回も開いて、身を切る覚悟もして賃上げの結論をだしている」「事業を実施するかどうかわかりません、などということではすまされぬ。第4回定例会（12月議会）で補正予算を組むべきだ」と求めました。子ども未来局の**浦屋謙子ども育成部長**は、「今年度の事業なので、できるだけ早急に決定したい」とのべました。